



とくべつほん 特別な本



ジュリア・ウィラードソン

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

「**パ**パの読む番よ」とバーニスは言って、聖典を開きました。ママンとパパがソファでバーニスのとなりに座ります。

パパが最初のせいくを読みました。「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが。」

「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが」と、バーニスはくり返しました。

「すべてのことの意味を知っているわけでは
ありません」と、パパが読みます。

わけでははむずかしい言葉でした。バーニスはまだ字が読めませんし、すべての言葉の意味は分かりません。でも、家族で一緒に聖文を読むとき、その言葉をくり返すのが大好きです。

次の日、聖文の時間に、パパがびっくりするものを用意していました。「バーニスに特別なプレゼントがあるんだ」と言って、パパはバーニスに1さつの本をわたしました。表紙には人々と船の絵がかかれています。

「これ、わたしの？」とバーニスはたずねて、大きな本をうでにだきしめました。

「そうだよ」とパパは言いました。「中を見てごらん。」

バーニスは本を開いて、目を丸くしました。色とりどりの絵がたくさんあります。

「これ、なあに？」バーニスはたずねました。

パパは表紙の言葉を指さして、「『モルモン書ものがたり』だよ」と教えてくれました。

バーニスは表紙の言葉をなぞって、「モルモン書ものがたり」と、くり返しました。

「聖典で読んでいるのと同じお話がのっているのよ」とママンが言います。

バーニスはその絵の一つを指さして、「これはだれ？」とたずねました。

「えっと、弓と矢が見える？」ママンが聞きました。

バーニスはうなずきました。
「弓が折れてしまった人の話を読んだのを覚えているかな？」と、パパが言いました。

「ニーファイ？」バーニスが言いました。
「そう、ニーファイだね」とパパは答えました。

バーニスはにっこりしました。「パパ、ありがとう。ママン、ありがとう。この本、とても気に入ったわ。」

毎晩、バーニスはママンとパパと一緒にその本を読みました。バーニスは絵を指さしました。むずかしい言葉をいくつか言えるようになりました。そして、自分で簡単な言葉をいくつか読めるようになりました！

聖文を読むと、バーニスは幸せな気持ちになります。ママンとパパと一緒に読めてうれしくおもいました。●

このお話は、コンゴ民主共和国での出来事です。

*1 ニーファイ 11:17